

【花粉症に対するステロイドホルモンの筋肉注射による治療の注意点】

「花粉症に対する注射の治療はしていますか？」と聞かれることがあります。

結論から言いますとあまりお勧めはしていません。

ステロイドホルモン剤がアレルギー疾患に有効なことは言うまでもありません。

この治療に使われるものは筋肉に注射をすることで2~3週間の効果が持続するように作られています。

「1回の注射で花粉症が治る」「2~3週間の効果が得られる」という謳い文句で使われていますが、その問題点は内服薬で副作用が発現した場合はすぐに使用を中止することが出来ますが、注射の場合は薬の作用が持続するため何らかの副作用が発生しても身体に入った薬の作用は止めることが出来ないということにあります。

ステロイドホルモン剤にはいろいろな副作用があります。

主な副作用としては糖尿病、消化器潰瘍、骨粗しょう症、無菌整骨壊死、感染症の誘発、高血圧、白内障、緑内障の悪化、また注射部位の筋萎縮や月経不順が続いたなど。

若い健康な方に年に1回程度ならあまりそういったことはありませんが、それだけリスクがある治療法であることを理解する必要があります。当医院ではステロイドホルモン剤は使いますが、内服薬の短期間の使用に限っています。

近年、抗アレルギー剤も進化しており局所投与薬（ステロイド点鼻薬）とうまく組み合わせることで十分な効果が得られます。

副作用のリスクが少ない治療をお勧めします。

おかもと耳鼻咽喉科